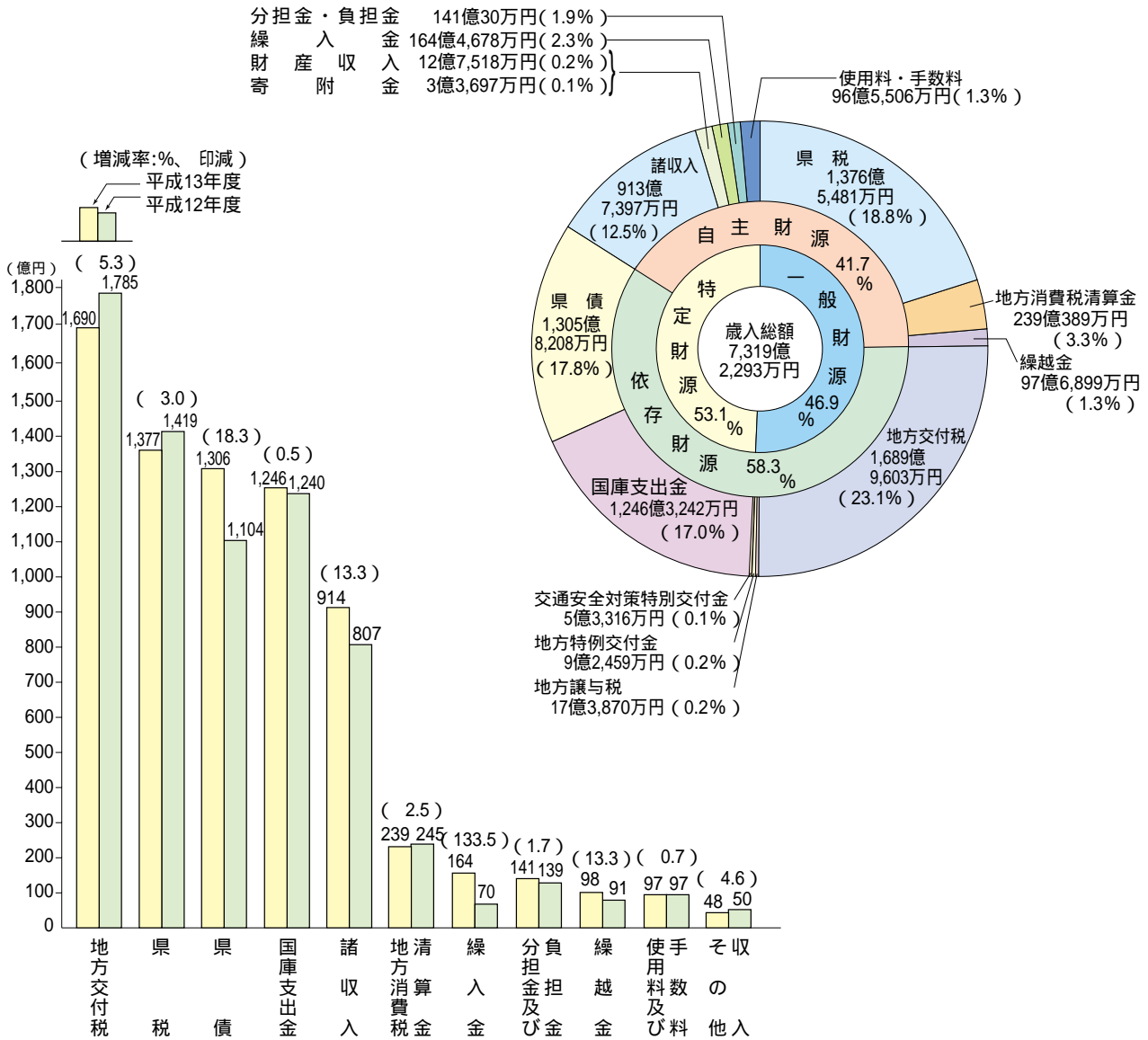


一般会計の歳入・歳出それぞれに詳しく教えてください。

一般会計歳入の状況

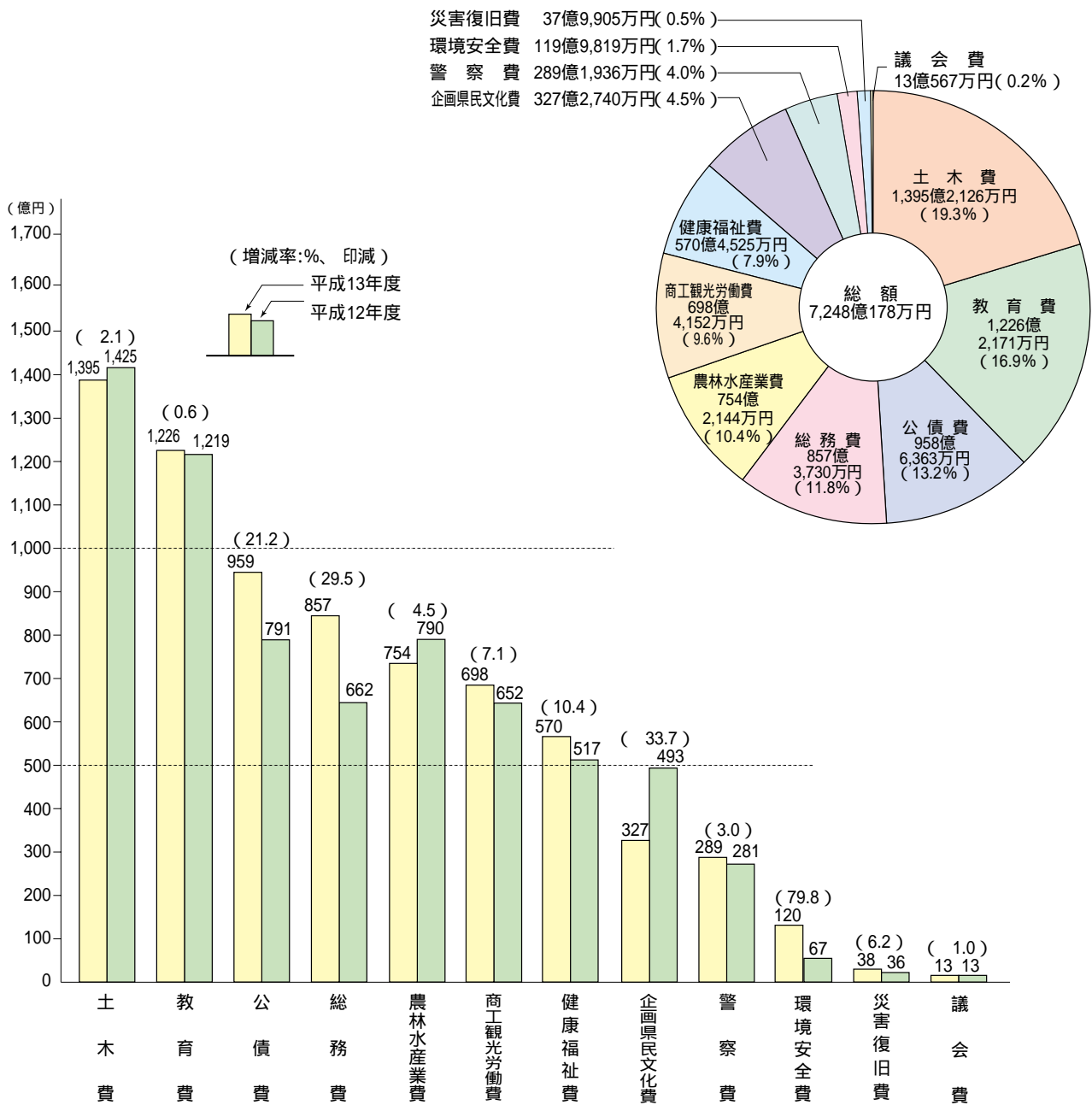


地方交付税は、臨時財政対策債の新設に伴い、基準財政需要額の一部が振り替えられたことなどにより、対前年度比5.3%、95億248万円の減となりました。

県税は、法人関係税が企業収益の悪化に伴い22億5,872万円の減額となったことと、県民税利子割が前年度の郵便局定額貯金の集中満期による大幅な増加の反動により減少(12億1,139万円の減)したことなどにより、対前年度比3.0%、42億2,726万円の減となりました。

県債は、臨時財政対策債の新規発行、一般公共事業債、借換債の増などにより、対前年度比18.3%、201億8,508万円の増となりました。

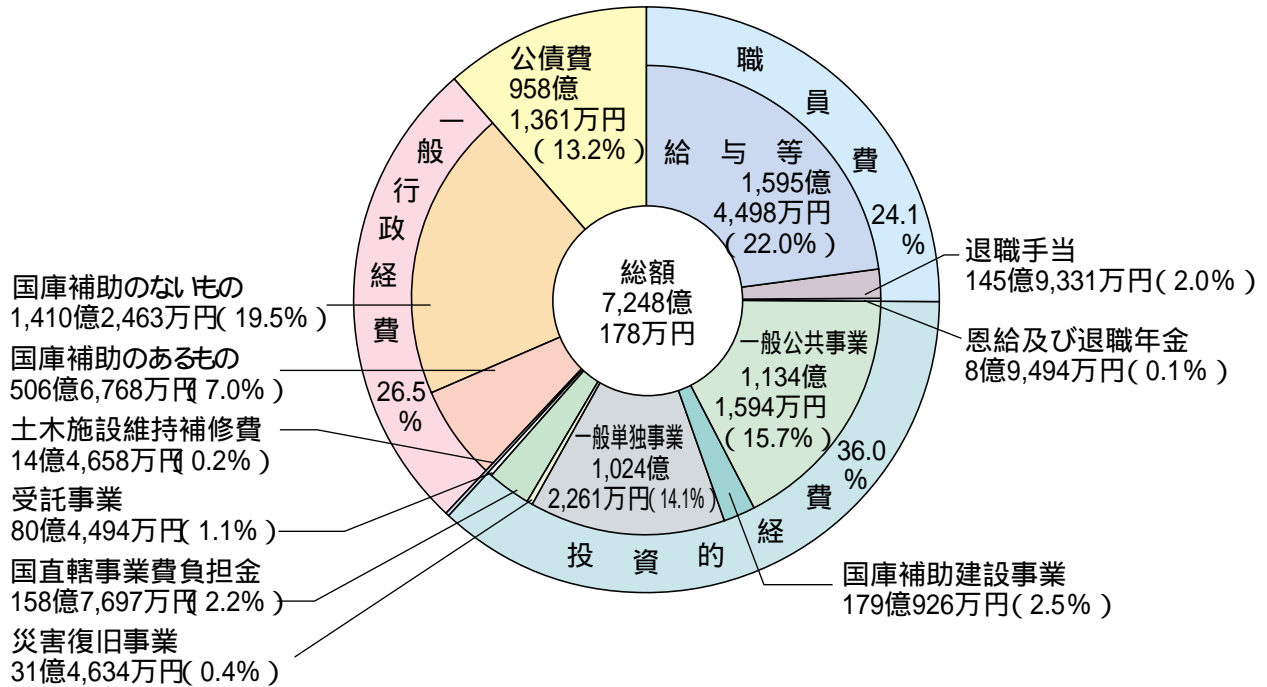
## 一般会計歳出の状況（目的別（款別）内訳）



歳出を目的別（款別）にみると、構成比では土木費の19.3%が最も大きく、次いで教育費16.9%、公債費13.2%となっています。

総務費は、新県庁舎の建設が本格化したことにより29.5%の増となり、企画県民文化費は、平成13年9月開館の県立音楽堂の建設費が大きく減ったことにより、33.7%の減となりました。

一般会計歳出の状況（性質別内訳）



	7,248億178万円			
平成13年度	1,750億3,323万円 (100.6)	2,608億1,606万円 (102.3)	1,916億9,230万円 (103.6)	958億1,361万円 (121.1) 14億4,658万円 (100.3)
	職員費	投資的経費	一般行政経費	公債費
平成12年度	1,740億2,685万円 (100)	2,549億6,246万円 (100)	1,850億2,493万円 (100)	790億7,835万円 (100) 14億4,276万円 (100)
				土木施設維持補修費
	6,945億3,535万円			

(注1)円グラフの( )は構成比です。  
 (注2)数値はすべて四捨五入しており、合計額が一致しない場合があります。

歳出を性質別にみると、構成比では投資的経費36.0%、一般行政経費26.5%、職員費24.1%となっています。

投資的経費は、新県庁舎の建設本格化などにより2.3%の増となり、一般行政経費は、緊急雇用創出特別基金の創設や介護保険給付費負担金の増などにより3.6%の増となっています。